



編集・発行

富山商船同窓会

No.28

平成23年9月1日発行

射水市海老江練合1-2

TEL (0766) 86-5100 FAX (0766) 86-5110

振替口座 00720-1-2631

同窓会HP <http://www.toyama-shosen.com/>



特集 東日本大震災

東日本大震災

このたびの東北地方太平洋沖地震および長野県北部の地震により
被災された同窓生ならびにご家族の皆さまへ、心よりお見舞いを申し上げます。

こんにちは、会報担当の三輪 (E49期) です。私は地震発生時、富山高専射水キャンパスの教員室に居ましたが、これまでに経験したことのない長周期の揺れを感じました。そしてキャンパス内の実験実習工場のテレビで報じられている映像を見て、初めて事の重大さに恐れを感じました。東北地方を震源とした地震、そして巨大津波の発生、頭の中に思い浮かんだのは、東北出身の同級生と東北近海を航行エリアとする商船に就職した同窓生の面々でした。

友人を頼って情報をもらい同級生の安否を確認していた時、ラグビー部の主将として活躍していた丹治正弘 (N82期) さんが乗船していたフェリーが寸でのところで津波から逃れたことを知りました。今回、当時の様子を知らせてもらいましたので、ここに記させていただきます。文章は丹治さんから頂いたまま、掲載致します。

『地震の10分位前に日立港に着岸。その後ランプウェイを降ろして荷役開始。荷役開始後2、3分後に地震が来たよ。船内の有人トラックやシャーシが飛び跳ねる様に揺れて、岸壁を見たら積む予定のシャーシや、シャーシを引っ張るトラックヘッドが何台か陥没した岸壁に落ちてた。130台くらいのうち3台だけ下船してて、ステベもすぐに船から出るように指示。船長が6メートルの津波が来るとかトランシーバーで話してたから、すぐにランプウェイを巻き上げ出港準備したよ。その間にも岸壁は液状化現象で陥没した所から泥水が出た。かろうじてビットは大丈夫で綱取りの人もホーサーラインをレッコしてくれたから出港出来たよ。綱はなしが居なければホーサーラインを切って出港するって話してた。なんとか津波が来る前に日立港を出る事ができ、難を逃れた。その後は会社と連絡つかず、茨城県沖に2、3日流してたよ。陸の灯りは無く真っ暗だった。その後会社と連絡取れて、とりあえず釧路に入港。福島原発の事故はその時まだ情報なく、普通に20マイル沖を航行。日立に入港出来なくなり、東京品川に入港するようになったときには放射能対策で50マイル離し、船内通風を遮断、造水機も停止。』

『地震の時に司厨長が食料の買出しに行き、船に戻れず何日か避難所生活を送ってたよ。ご飯は乗組員で好きな物作って食べてた。釧路で別な司厨長が来たけどね。日立港に着岸してすぐの地震だったのが幸いして、買い物に出た人も乗組員13人のうち司厨長1人。エンジンも冷えて無かったからすぐにスタンバイできたし。5月中旬から日立港入港を再開。現在原発は30マイル離して航行し、放射線測定器で通過地点や港の放

射能を測定しながら運航してる。まだ岸壁はなおっていないし、国道も陥没したままで片側通行。』

『対岸のベンツ揚げる岸壁は、ベンツが燃えてニュースにもなった。YouTube で車燃えてるのが見れるよ。こんな感じです。』

ちなみに相場 (NE1期) はうちの子会社に居て、地震の時は乗船予定日だったみたい。茨城県のひたちなか港で乗船予定だったけど、電車が止まり、その後苫小牧で乗船したそう。』



丹治さんの乗船しているフェリー



丹治さんのお子さん



丹治さんのご家族

丹治さんの出身地は福島県です。ご実家のご両親も奥様も無事であるとのことでした。しかしながら、お子様はまだ小さく、原発事故による健康被害などを心配されているとのことでした。 (E49 三輪 誠記)

■ 専攻科1年 阿部秀也さんのご自宅へのお見舞い

震災発生から1カ月経った4月中旬、本校専攻科（海事システム工学専攻）1年の阿部秀也さんのご家族をお見舞いに伺いました。阿部さんのご自宅は宮城県女川町出島にあります。ご実家ではホタテと銀鮭の養殖漁業を営まれていましたが、自宅も漁業の道具も今回の津波により流されたとの事でした。幸いにもご家族は全員無事で、現在は石巻市の仮設住宅にて生活を送られています。お父様は今年中にも同じ地区の漁業仲間の方と準備を整え、養殖を再開されるとのことでした。ご家族の皆様のご健康と一日も早い漁業の再開をお祈り申し上げます。

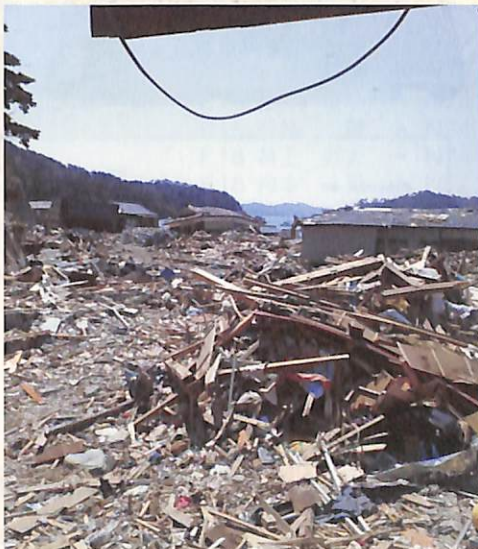
（E30 佐々木 正 記）



▲ご自宅の1階は完全に浸水しました。



▲浴室にも家財が流れ込みました。



◀ 写真（左）奥は港ですが、ほとんどの建物が流れられてしまいました。

写真（右）中央の赤い屋根が阿部さんのご実家です。90度回転して留まりました。



▲避難している宮城県古川町の伯父さん宅にてご家族にお会いしました。久しぶりにご家族と再会にした阿部さん（写真：右から1人目）からは安堵の表情が伺えました。



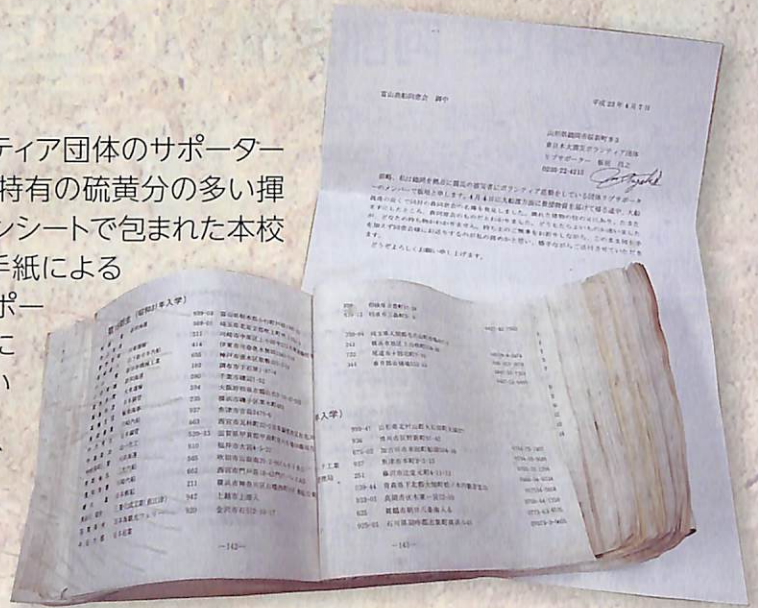
▲専攻科特別研究の中間発表にてポスターを前に説明する阿部さん（写真：右から1人目）

震災ボランティアより

4月13日朝、富山商船同窓会宛に東日本ボランティア団体のサポーターの方から小包が届きました。箱を開けますと、重油特有の硫黄分の多い揮発性ガスの匂いがしました。そして、丁寧にナイロンシートで包まれた本校の古い同窓会名簿が入っていました。同封された手紙によると大船渡港の崩壊した建物の柱の根元にあり、サポーターの方が瓦礫の撤去作業の折りに、たまたま手にされたものということでした。持ち主がわからないため、本同窓会へ送付されたということでした。

事務局では、東日本大震災ボランティア団体リブサポーター板垣様の本同窓会へのお心遣いに対して、感謝の気持ちを込めてお礼の手紙をお送りいたしました。

以下、同封された手紙を記します。



富山商船同窓会 御中

平成23年4月7日

東日本大震災ボランティア団体
リブサポーター 板垣 昌之

前略、私は鶴岡を拠点に震災の被災者にボランティア活動をしている団体リブサポーターのメンバーで板垣と申します。4月4日に大船渡方面に救援物資を届けて帰る途中、大船渡港の近くで同封の貴同窓会の名簿を発見しました。壊れた建物の柱の元にあり、たまたま手にしたところ、貴同窓会のものだとわかりました。どうしたらよいものか迷いましたが、どなたの持ち物かわかりません。持ち主のご無事をお祈りしながら、このまま何も手を加えず同窓会様にお送りするのが私の務めかと思い、勝手ながらご送付させていただきます。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

草々

富山商船同窓会 御中

平成23年4月7日

山形県鶴岡市稲葉町9-3
東日本震災ボランティア団体
リブサポーター 板垣 昌之
0235-22-4215

前略、私は鶴岡を拠点に震災の被災者にボランティア活動をしている団体リブサポーターのメンバーで板垣と申します。4月4日に大船渡方面に救援物資を届けて帰る途中、大船渡港の近くで同封の貴同窓会の名簿を発見しました。壊れた建物の柱の元にあり、たまたま手にしたところ、貴同窓会のものだとわかりました。どうしたらよいものか迷いましたが、どなたの持ち物かわかりません。持ち主のご無事をお祈りしながら、このまま何も手を加えず同窓会様にお送りするのが私の務めかと思い、勝手ながらご送付させていただきます。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

草々

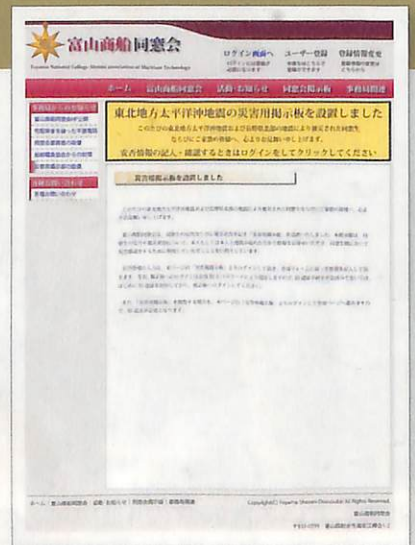
▲同封された手紙

災害用掲示板を設置いたしました

富山商船同窓会は、同窓生の安否ならびに被災状況を記す「災害用掲示板」を設置致しました。本掲示板は、同窓生の安否や被災状況について、本人もしくは本人と連絡が取れた方から情報をお寄せいただき、同窓生間において安否確認するために利用して頂くことを目的としています。

安否情報の入力、ホームページの「災害用掲示板」よりログインして頂き、専用フォームに従って情報を記入して頂きます。なお、掲示板へのログインは会員IDとパスワードにより認証しますので、ID認証手続きがお済みでない方は、はじめにID認証を取得してから、掲示板へログインしてください。

また「災害用掲示板」を閲覧する場合も、ホームページの「災害用掲示板」よりログインして専用ページへ進みますので、ID認証が必要となります。



定期総会

日時 平成22年10月30日(土) 16:00～

場所 富山電気ビルレストラン

台風の接近により悪天候に見舞われましたが、本年度の同窓会総会は50名を超える参加者がありました。総会次第に沿って、島木同窓会長の挨拶、各支部長より支部報告が行われました。その後、総会に先立って開催された理事会での決定事項について、報告がなされ、参加者に承認をいただきました。

昨年の総会において検討課題とした「学校統合による同窓会名称の変更」については、各支部より熟慮した提案がなされ、それらについて熱く意見が交わされました。今回の総会では、各支部から提案された意見を踏まえ、再度、支部ごとに検討して頂き、次回総会にて提案し同窓会新名称を決定することとなりました。本総会にて決定した事項と今後の課題を以下に示します。

役員人事

同窓会長	N55 島木 隆昭	→ E25 山口 光三
函館事務局	N50 北畠 大陸	→ N53 勝木 敏秀
富山支部理事	D1 中村 治生	→ E49 三輪 誠
	NE3 田村 剛由	→ NE1 山谷 尚弘
	D1 梅谷 秀雄	→ D16 高崎 雅志
	N40 堤 禎一	→ N59 高橋 尚徳
関東支部理事	N45 川村 赳	→ N59 永井 仁
	N50 田中 善治	→ N66 香林 大介
	E2 荻野 与平	→ E52 大谷 明豊
	E5 大澤 修	→ N67 前田 晃
	E12 小島 泰夫	→ N73 大賀 達朗
	E13 佐藤 孝助	→ N74 森下 嘉樹
	E15 改井 魏	→ N74 佐藤 重雄
	E18 井上 邦夫	→ N74 佐藤 英一
	E18 舟本 晃	→ NE2 作田 朋巳
	E27 端谷 勉	→ NE12 建部 啓太
	E36 藤田 利幸	→ NE14 長谷川佳永
関西支部長	N50 北嶋 憲一	→ N57 福地 赳雄

決定事項

- ・全船協の賛助会員は継続する。
- ・母校援助費(5商船漕艇大会、ロボコン、プロコン等への援助)を認める。
- ・全国高専同窓会連絡会へは今回入会しない。

検討課題

同窓会名称の変更について、各支部にて再度検討し、次回の総会に提案して決定するものとする。



懇親会

総会の後、同ビルレストランにて、懇親会が開催されました。懇親会には(社)全日本船舶職員協会より内田成孝会長が来賓として参加されました。山口新同窓会長の挨拶の後、D16高崎氏の発声にて、同窓会の発展を祈念し、一同で乾杯をして会はスタートしました。懇談途中では、富山商船100周年記念誌の中表紙のイラストをデザインされたE20花岡氏が紹介され、またN57林氏のマジックが披露されるなど、終始和やかなに会が進みました。北陸地区へ接近が心配された台風も無事に過ぎ去った頃、N79北見氏の音頭で万歳三唱をして、会はお開きとなりました。

同窓会長 山口 光三 (E25)



昨年10月30日の同窓会総会において、島木会長の後を受けて富山商船同窓会長に就任いたしましたE-25期の山口でございます。

島木会長には母校と富山工業高専校との合併に伴ういろいろな事業に参加され無事大任を全うされ、もう一期と切望しましたが、やむなく承いたしました。

川崎汽船を退社してから新湊に在住した関係で新湊の「汐海」の同窓会参加以来40年近くたちました。いまのような同窓会になってから富山支部の理事にも参加し富山支部長を経て会長就任となりましたが、まさか我が母校の校名がなくなるとは夢にも思

いませんでした。明治39年7月開校以来、数回となく所管が変わりながらも商船学校の校名は100年来続いてきましたが世の移り変わりとともに変化していくのもやむを得ないのでしょうか。

節目の時期に会長と言う重職を引き受けることになりましたが会員諸兄の御指導、ご鞭撻を仰ぎながら今後の入学生、卒業生が当同窓会の目的である「会員相互の親睦をはかること」また「母校の発展に寄与すること」に賛同して入会できる事を考慮しながら同窓会の名称等も決めていきたいと思ひます。

会員のみならずには、今後とも同窓会の活動に御意見、御指導を賜りますよう、また参加されますようお願い申し上げ新任のご挨拶と致します。

同窓会長挨拶

支部会 だより

函館支部

北海道では絶好の季節、平成23年6月18日、函館のホテル法華クラブで恒例の富山商船函館支部の総会並びに懇親会を開催致しました。総会開始前に、東日本震災でお亡くなりになられた方々に黙とうを捧げご冥福を祈り、また一日も早い東北地方の復興を祈りました。今回は本部の要請で北海道在住者104名に案内状を送付しました。札幌地方5名の方々の出席を戴き、又本部より校長代理の佐々木先生のお越しを仰ぎ、総勢26名の盛大な役員会、総会、懇親会、2次会（出席15名）を開催しました。

役員会後、総会では黙とう、千葉会長挨拶、佐々木先生挨拶に引き続き議事に移り

- 1、函館支部平成22年度会計報告 了承
- 2、高専統合に伴う商船学校同窓会本部の名称案 *北斗会* の報告
11月本部総会にて決定となる。
- 3、富山商船同窓会北海道支部を立ち上げるべく、函館支部（略称、越洋会）を昇格し北海道支部を設立する。また、旧函館支部は北海道支部の分科会とし、富山商船越洋会と称し存続する。
- 4、北海道支部長、吉村正秀氏 事務局長、谷川芳郎氏 事務局 政氏氏（高専、NI 期生）選出 理事は後日、支部長指名とする。

- 5、懇親会では吉村北海道支部長、千葉越洋会会長挨拶に続き北川氏の乾杯の音頭で始まりました。和気あいあいと宴会が進み、佐々木先生の学校近況、エピソード等のお話、欠席者の近況について佐野氏報告、川田氏の元青函連絡船自動化船第1号津軽丸の小型レプリカの披露（懐かしい汽笛、銅銀が聞こえます）また、商船学校寮歌等の合唱で大いに盛り上がり、お開き音頭は有馬JCI函館支部長でした。引き続き2次会では懐メロ、カラオケ大会と一段と盛り上がりました。
- 6、10月に北海道支部の第一回目の総会、懇親会を登別あたりでは…という意見もありました。



●平成23年度総会出席者

N35 山田 友二(函館)	N86 小寺 義信(函館)	N86 近藤 金哉(函館)
N87 吉崎 克美(函館)	N40 古澤 秀臣(函館)	N43 川田 正人(函館)
N45 山内 弘(函館)	N45 向井 晟伍(函館)	N50 千葉 辰見(函館)
N50 柴田駿之助(函館)	N50 北畠 大陸(函館)	N53 勝本 敏秀(函館)
N53 三浦喜人郎(函館)	N57 佐野 正弘(函館)	N64 有馬 考次(函館)
E5 川野 宗男(函館)	E7 佐藤 正(函館)	E15 佐藤 英三(函館)
E21 谷川 芳郎(函館)	N38 北川 雄(石狩)	N47 澤田 卓男(札幌)
N52 吉村 正秀(札幌)	N68 早瀬 達哉(函館)	N58 小田部誠一(留萌)
E24 川田 秀史(札幌)	E30 佐々木 正(富山高専)	敬称略

石川富船会

北陸地方にも桜の開花の便りが聞かれる中、4月10日和倉温泉で石川富船会の総会並びに懇親会を開催致しました。東日本大震災発生の中、開催することを躊躇したのですが亡くなられた方のご冥福と被災された方々にお見舞いを申し上げ一日も早い復旧復興を願いながら、会員皆様の年に一度の懇親を図るのも意義があるのではないかと考え開催することとしました。今までの常連の方々も高齢となり体調を崩され参加出来なくなつた方が多く、段々と世代交代が感じられますが幅広いご参加を頂き石川富船会の歴史を継承して行きたいものです。今年は N57期 E24期の同期生が6名、E28期生が3名と同期の方々の声掛けで18名の参加者となりました。来年度はもつと気候の良い時期との意見があり、5月中旬の予定です。多くの方々の参加をお願いします。



●出席者

N36 亀山 善正(能登町)	N47 小堀 浩(富来)	N56 中塚 一平(野々市)
N57 池田 忠重(羽咋)	N57 坂 實(門前)	N57 古府 隆(津幡)
E13 大刀柄良雄(町野)	E21 安達 勝範(富来)	E22 檜邑 久雄(羽咋)
E23 山下 行夫(穴水)	E24 官下 茂雄(珠洲)	E24 石井 秋吉(射水市)
E24 横地 徹(門前)	E27 村本 良(羽咋)	E28 北村外茂幸(金沢)
E28 多間俊太郎(飯田)	E28 寺田 幸英(金沢)	E35 竹端 孝雄(七尾)

富山支部

平成23年度富山支部理事会が7月18日に富山高等専門学校射水キャンパスの図書館2F同窓会室にて開催されました。池田支部長の挨拶のあと、山口同窓会会長の挨拶がありました。その後、資料に沿って、佐々木理事ならびに水谷理事から報告事項があり、議題の審議・検討へと入りました。報告事項と議題事項は次の通りです。

(報告事項)

- (1) 平成23年度総会日程について
11月5日(土)
14:00~ 理事会、16:00~ 総会、17:00~ 懇親会
- (2) 新支部の開設について
北海道支部と東北支部の発足と現状報告
- (3) 東北大震災について

(議題) (総会提出議案及び決議議案)

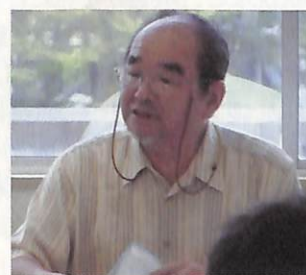
- (1) 富山商船同窓会の新名称の決定について
- (2) 連続欠席理事の取り扱いについて
- (3) 講演会について
- (4) 富山商船「歌集」の発行について
- (5) その他



理事会の様子



池田支部長



山口同窓会会長

● 東北支部 ●

今年3月11日に未曾有の被害をもたらした東日本大震災では、東北地区在住の同窓生にも多くの被災関係者が発生しました。本部としては被災状況を一刻も早く把握するために、被災地区及び近隣在住の同窓生に連絡をとりましたが、近年稀にみる災害状況下では電話連絡もつかないほどの困難に直面しました。そのような中、一同窓生から仙台在住の同窓生でN71期の佐藤 淳さんを紹介されたことと、E25期の朝倉光洋さんが快く支部長を引き受けていただいたことで、とんとん拍子に7月15日の東北支部設立を迎えた。正式な発足は11月5日の「総会」後になりますが、既に支部として東北在住の同窓生の動向及び前述の「被災者」の状況把握に動いてもらっています。

支部長 E25 朝倉 光洋
事務局 N71 佐藤 淳
理事 E30 田原口 孝 N63 高橋 茂
E32 長田 豊 N69 千田 茂

「東北」、「北海道」の新支部設立

● 北海道支部 ●

これまで富山商船同窓会「函館支部」は「越洋会」(青函連絡船OB会)のお世話で運営してきましたが、同会会員の高齢化と北海道在住同窓生の強い要望で、6月18日「越洋会」総会において全出席者の賛成の意向を受け、「函館支部」を「北海道支部」とするに至りました。なお、「越洋会」は青函連絡船OB会として本来の形で継続・運営されますが、会員の皆様は当然「北海道支部」の会員であり、今後は富山商船同窓会の支部業務が「北海道支部」に移行・運営される形になります。また「北海道支部」は事務局の所在地を函館から札幌に移し、新たな支部長・事務局の元運営されることになりました。

「越洋会」会員の皆様にはこれまで長年にわたり「函館支部」を運営して頂いたことに感謝申し上げます。

支部長 N52 吉村 正秀
事務局 E21 谷川 芳郎
理事 未定

(11月総会までに決定する予定)

東北支部立ち上げ及び第一回同窓会開催

平成23年7月15日（金）19:00 より第一回東北支部同窓会を仙台市内にて催しました。

誰もが予想さえしなかった3月11日の東日本大震災。皮肉にもこの未曾有の震災が東北支部の立ち上げを早めることとなるのは私自身思いもよりませんでした。

今年初め頃、ラグビー部の先輩より『東北支部立ち上げの手伝いしたってな』と連絡があり、『そのうちなんかくるんだろう』くらいの軽い気持ちでしばし放置しておりました。その矢先の3月11日。津波の直接被害のなかった内陸部においても、ライフラインの崩壊、日々変化する福島原発の状況など、被害がどれだけ大きくなっていくのか判らない状態。同窓会の話は完全に頭から抜けていたある日、本校佐々木氏より連絡がありました。女川で親御さんが被災された学生を送りながら仙台に来られるとの事。震災から約一ヵ月後、お会いした佐々木氏からは、『東北の同窓生の安否心配、なんとかならんもんだらうか』と言う話になり、東北支部の立ち上げのお手伝いをさせて頂くこととなりました。支部長には朝倉光洋氏(E25)に快諾頂き、名簿にのっとり支部立ち上げの連絡を郵送すると共に、三陸沿岸部の方々には電話にて状況確認を実施いたしました。電話にて連絡の取れた方々の安否については確認できるのですが、連絡の取れない方も多々居られ、確認作業の難しさを思い知らされております。そんな中で、第一回東北支部同窓会を開催できたのは『東北支部ができてよかった』という皆様のお言葉があったこそだと思っております。

開催に当たり、本部より佐々木氏にも参会頂き、総勢6

名にて学生時代の当時の思い出話やら本校の近況、はたまた震災における互いの被災話など、しばし時を忘れて交流を深めた一夜でした。今回の同窓会において、参会者全員に理事就任のご了解頂き、また参会できなかった同窓生の方からもご賛同頂き、下記役員にて東北支部の運営進めて参りたいと思います。まだまだ復旧・復興まなならぬ東北ではありますが、少しずつ東北支部の輪が広まって行ける様頑張って参りますので、他支部の方々には於かれましても東北出身者へのお声掛けの程宜しくお願い申し上げます。

第一回東北支部同窓会参会者及び役員は下記の通り

日時・場所：平成23年7月15日（金）19:00～
自然・食彩・浪漫おしか

参会者：(支部長) 朝倉 光洋 (E25)
(理事) 田原口 孝 (E30)
長田 豊 (E32)
越後 邦博 (E44)
(事務局員) 佐藤 淳 (N71)
本校より佐々木 正 (E30)

また、今回ご参会されませんでした、下記2名の方に理事就任頂きました。

(理事) 高橋 茂 (N63)、千田 茂 (N69)

(以上敬称略)

(事務局 佐藤 淳 記)

第37回 商船グリーン会開催

- 平成23年4月8日
- 高岡CC頼成コース



▲ in10 番ホールティーグラウンドにて撮影

天気は曇り空でしたが、ゴルフの方は皆さんやる気満々です。

今回のコンペは、新緑の季節には少し早くフェアウェイの景色はゴッホの黄色?の世界であった。ラフもまだ短くその分、ボールは見易くプレーの進行がスムーズであった。ラウンド後、コンペルームで表彰式と学校の近況報告が山口後援会会長と佐々木さんからなされ、時代の移り変わりが感じられるひと時であった。(奥田 記)

ドライブ旅行記

九州一周

おじいさん達の

平成22年
10月27日

平成21年8月4～10日 東北一周ドライブ旅行をして、楽しい時間を過ごし、来年は九州一周旅行をしようとの事で計画する。同じメンバーで行こうとのことでしたが、2名が仕事の関係で行けないとのことで、熊野明男さんに声掛けて賛同を得、3名（森田、北嶋、熊野）にて行く事にする。

10月19日 15:00 大阪弁天町に集合、南港のフェリー乗り場へ

10月19日 17:55 「サンフラワーきりしま」にて鹿児島志布志港へ向け出港。

我々商船学校を卒業以来五十数年がすぎており、最近の船内はどうなっているのか?興味があり、出港後パーサーにお願いして船橋、機関室を見せて貰おう、とのことでパーサーにお願いする、幸いパーサーはサンフラワー初期のころの事を良く覚えていてくれて、左伝十三哉先輩(N-49期)が船長で乗っていた頃の記念写真等を見せてくれて、懐かしい話をしてくれ、後船橋、機関室を見学させてもらったが隔世の感があり、感動??する。



出港前のフェリーの前で



パーサーに懐かしい話を聞いて記念写真

10月20日 08:55 志布志港着 鹿屋、桜島から鹿児島市内観光に向かう。

鹿屋海上自衛隊基地では海上航空隊の出撃当時の写真等があり、18～19歳の若者が終戦記念日(20年8月15日)に飛び立って行き、帰らぬ人となった若者の写真を見て涙したものでした。



鹿屋海上自衛隊基地見学



桜島にて展望台へ

10月20日 14:00 鹿児島市内見学、仙巖園(島津斉彬の屋敷跡)城山展望台へ後、別府温泉「指宿コーラルビーチホテル」へ向かう



仙巖園の庭園



10月21日 指宿温泉の「砂むし湯」へ行く、後池田湖から知覧の特攻基地記念館へ行く



指宿温泉の砂むし風呂



知覧特攻基地記念館

知覧特攻基地記念館での展示品を見ると18~19歳の若武者が20年8月15日(終戦記念日)に出征して死んでいる、悲惨な記念写真があった。(鹿屋では海軍航空隊の特攻写真)

10月21日 鹿児島にて同期性の川水益男(旧姓田中)君が居るとのことで連絡し、彼の別荘にて奥さん共々歓談する。彼の別荘は霧島高原にあり、歓談中も野生の鹿が近くで鳴いていた。



川水君の別荘にて歓談

10月22日 09:00 霧島キャッスルホテルを出発、阿久根、蔵の元からフェリーにて天草の牛深へ渡り、天草五橋を走り、熊本市内(水前寺公園、熊本城)観光をしてフェリーにて熊本港から島原港へ渡り、雲仙温泉「湯元ホテル」へ行く、夜遅くなったが部屋にて若い仲居さんの給仕にて美味しい食事が待っていてくれた。



霧島キャッスルホテル前で、

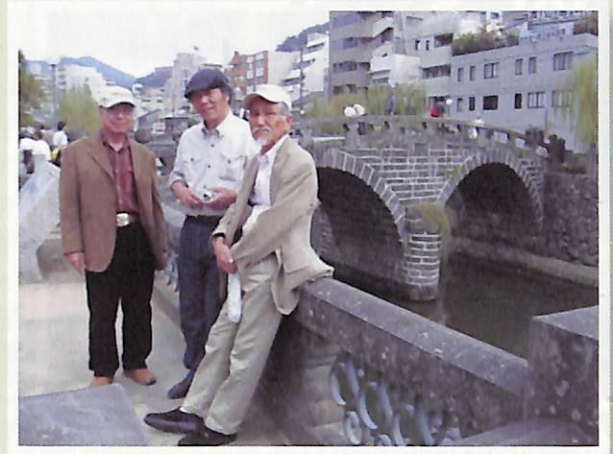


熊本 水前寺公園にて

10月23日 09:00 雲仙温泉「湯元ホテル」出発
長崎市内観光後嬉野温泉へ行く。



長崎平和公園にて



長崎忠案橋前にて



大浦天主堂前にて



海援隊が居た亀山社中の前で



グラバー邸にて



亀山社中の居宅内、坂本竜馬像の前で



グラバー邸より三菱造船所を望む

10月24日 09:00 嬉野温泉出発 有田、伊万里の陶芸
村を見学後、呼子にて「生きいか」料理を食し、唐津城を
見学、後 高速道路にて博多の「西鉄グランドホテル」へ。



伊万里焼記念館前の焼き物の橋飾り



唐津城天守閣より虹の松原を望む



唐津城の雄姿



唐津城見学後 駐車場からお城をバックに

- 10月24日 17:00 博多の西鉄グランドホテルへ投宿、博多の町を散策。
- 10月25日 09:00 西鉄グランドホテル出発、九州自動車道、大分自動車道を走り別府へ
別府にて温泉巡りをして「ひょうたん風呂」へ入る。
- 10月25日 18:35 ダイヤモンドフェリー「フェリーあいまり」にて大阪南港へ
- 10月26日 07:35 大阪南港 WTC埠頭に接岸、大阪弁天町にて休憩後、森田、熊野君は岐阜の森田邸に帰る。

九州一周旅行（10月19日～26日）ではフェリー乗船期間を除き、約 2000km の走行でした。71～73歳トリオの九州一周ドライブ旅行では車中のトラブルもなく、戦争記念館では涙して、又55年振りに同期性（川水君）に会えて、彼の元気な顔を見て、楽しい旅行でした。

又このような楽しい旅行をしたいものと話しながら、元気な再会を約しての散会でした。

(N-50期 北嶋 記)

同期会

N68・E35 (高専7期) 同期会報告

と き●平成22年9月18日
ところ●和倉温泉美湾荘



富山商船高専七期同期会御一行様 於 和倉温泉 美湾荘 平成22年9月18日



寄贈されたトロフィ



授与式

左から商船学科3年、商船学科5年、商船学科1年女子



レース風景



優勝した商船学科1年女子チーム

TOPICS

学内 トピックス

平成23年度校内カッターレース大会が晴天の下、7月13日に臨海実習場にて開催されました。前回の会報でもお知らせしましたように、校内カッターレース大会へは同窓会から優勝トロフィを寄贈しております。昨年は雨天のため開催中止となりましたので、今年の勝者が栄えあるトロフィを初めて手にすることになります。

参加チームは5月中旬から1~2回の練習を行って来ました。梅雨の時期は突然の雨に降られるなど、思うように練習ができないチームもありましたが、大会本番ではチーム一丸となり、呼吸と漕をそろえ力強く漕ぐ姿が見られました。入学者情報欄に掲載しましたように、商船学科1年は総数44名のうち、13名が女子学生です。従いまして、漕ぎ手12名に艇指揮1名の登録メンバーが揃い、商船学科が設立されて初の女子艇を結成となりました。

レースは400m回頭のタイムレースにて行われました。大会成績は以下の通りです。

●女子艇の部

第1位	商船学科1年	3'46"13
第2位	情報工学科5年	3'56"98
第3位	国際流通学科3年B	4'26"41

●男女混合艇の部

第1位	商船学科5年	3'11"43
第2位	専攻科	3'18"99
第3位	電子情報工学科2年	3'19"50

●男子艇の部

第1位	商船学科3年	2'54"84
第2位	商船学科2年A	3'07"95
第3位	商船学科5年	3'12"16

ようやく秋の気配が感じられるようになった平成22年9月18日、和倉温泉美湾荘にてN68・E35（高専7期）同期会を開催しました。この日を楽しみに全国各地から集まったのは23名。まずは檜風呂で身を清め、定刻には浴衣に着替えて記念撮影。卒業後32年目にしてようやく同窓会報に写真を掲載できる運びとなりました。開会の辞、乾杯、現況報告と続くうちに時間の壁を飛び越え、練習で暮らした日々がほんの数週間前のことのように感じられました。向かい合う友の笑顔の中にかつての紅顔の片鱗を見つけ、あちこちから聞こえてくる話し声が自然に耳に入ってくるというのは

実に奇妙な感触で、そこはあたかも和寮の一室のようでした。場所を変えての二次会はウコンの力で乾杯。波静かな七尾湾を望む部屋で夜の更けるまで語り尽くせぬ話を語り合いました。

翌日は5年後の再開を約して朝食後に流れ解散。「じゃあまたな」のひとつ言の中に、会おうと思えばいつでも会えるという確信を感じました。かつて我々が存在していた時間と空間がいまも存在するのであれば、それはこの確信の中にあるのだと思います。

幹事の皆様ありがとうございました。

（高専N7期 春田三郎記）

ご無沙汰しております。
これからもよろしくお願いいたします。

Newcomers

(E49 三輪 誠 記)

このコーナーではキャンパス内の同窓生を紹介していきます。練習船若潮丸に人事異動があり、三宅一等航海士が日本海洋事業へ帰社され、新たに大久保一等航海士が着任しました。また新たに勝島隆史さんが商船学科へ着任されました。



大久保 誠

NE15期(平成19年度卒業)

3月に若潮丸へ一等航海士として着任しました。本校を卒業してから日本海洋事業(株)で"しんかい6500"を載せた調査船の運航業務に携わっていました。旅行が趣味で休暇中は国内外を問わず出かけています。旅行先で最も印象深かったのは2009年11月に訪れたペルーです。マチュピチュ遺跡やナスカの地上絵などを見て来ました。皆さまの記憶に新しい事と思いますが、その翌年1月には豪雨による土砂崩れでマチュピチュに日本人を含む多くの観光客が取り残されるという、災害が発生しました。自身も被災する可能性があったことを思うと、被害に遭った人々の事が他人事では無いように深く感じた旅でした。

学生への指導等は初めての経験になります。緊張しますが、実習を無事故で終われるように努力したいと思います。また、自身の船乗りとしての経験を多くの学生に伝えてあげたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



勝島 隆史

NE10期(平成13年度卒業)

4月に商船学科へ着任しました。海事法や国際物流論などの商船学科航海コースの授業を担当しています。学生主事補として校内行事の企画実行にも携わっています。趣味は登山とスキー、

釣りで。高専時代は卓球部に所属していました。平成13年に高専を卒業し、長岡技術大学に編入学しました。大学では山岳部に入りました。在学中は雪崩の発生につながる雪の積もり方など、趣味の登山に関係した"雪"に関する研究を行っていました。積雪の変化を再現するシミュレーションの作成など現在も雪に関する研究を続けています。学内ではヨット部のクラブ顧問をしています。若潮丸の山谷さん(NE1期)、大久保さん(NE15期)とともに練習指導や大会引率にあたっています。これからもよろしくお願いいたします。

わが青春の日
常に真摯に 情熱を以つて教鞭をとられ
あたらしき高度な機関技術を自ら研鑽し 若き我等を導き
真に実学の尊きを 示されし人
数多の船人を育成 世に大いなる貢献なされし人
今わが身の幸せ かの恩師ありてこそ
忘れ難き人との別れ 胸に渗みるが如く淋しくも
追憶の中 ただ懐かしく 想いでの数々
長崎先生ありがとうございました
真白き雲の流れる 西の空を仰ぎつつ
静かに祈りとご冥福を

合掌

★平成二十三年八月二十一日
故長崎相生先生を偲びながら

蝉しぐれ

人逝きし 遠く近くに 蝉しぐれ

作詞 堀口兵策

平成23年度

総会・懇親会のお知らせ

■日時

平成23年11月5日(土)

14:00~16:00 理事会

16:00~17:00 総会

17:00~19:00 懇親会

■場所

富山電気ビルレストラン

富山電気ビルレストラン
〒930-0004 富山市桜橋通り3番1号
TEL:076-432-4111 FAX:076-432-4130

■懇親会会費

5,000円(女性は3,000円)

(平成23年3月、9月に卒業した会員は無料)

※準備の都合上、出席の有無は10月15日までに同封のがきでお知らせください。

編集後記

このたびの震災では多くの同窓生とそのご家族が被災されました、心よりお見舞いを申し上げます。

11月の総会では同窓会の新名称が決定される予定です。諸先輩方にも馴染みのある、

そしてこれから同窓会を支える若い世代にも親しみの持

てる、名称になることを期待したいと思います。

事務局では引き続き皆さまからの原稿をお待ちしております。なおホームページは季節の話題や旬な情報をいち早くお知らせできますので、こちらも是非ご連絡をお待ちしております。

(E49 三輪 誠 記)